

## お子様の祖父母に関するアンケート 三世代同居の状況 ～県立大学 H20 年調査結果との比較～

### 1 調査概要

	今回調査	県立大学調査
目的	幼児教育プログラム策定のための基礎資料として	本県の健康長寿の要因を「こころ」、「からだ」、「しゃかい」という3つの視点から検討するための基礎資料
実施年	平成 24 年 (2012 年) 1 月	平成 20 年 (2010 年) 1 月
対象	保育所・幼稚園に通園する幼児家庭 (保護者)	20 歳以上の県民 2,700 人を無作為抽出
回答数	8,348 人	1,639 人 (60.7%)

### 2 調査結果の比較

#### (1) 三世代同居等の状況

調査結果において、三世代同居世帯の割合は、圧倒的に今回調査が高い結果となった。

これは、幼児家庭を対象に調査したため、対象から単独世帯 (独身・高齢者世帯) が外れたことが大きな要因と考えられる。

		今回調査	県立大学調査
三世代同居	同じ家屋内 (2 世帯住宅など)	38.1% 3,180 (38.1%)	11.7%
三世代近居	同じ敷地内の別家屋	783 ( 9.4%)	3.8%
	車で 15 分未満の範囲	52.6% 2,804 (33.6%)	46.1% 27.0%
	車で 15～30 分以内の範囲	799 (9.6%)	15.3%
	住んでいない (30 分以上)	719 (8.6%)	34.7%
	無回答	63 (0.7%)	7.6%
計		8,348 (100.0%)	100.1%

#### (2) 育児の状況

共稼ぎ県福井で、母親が仕事と育児の両立を図る上で、大きなサポートになっているのは父親よりも祖母の存在であり、両性間の水平的分担・分業よりも、女性による世代間の垂直的な分担・分業に支えられている (出典 第 5 回将来ビジョン検討会議より)。

